

第Ⅸ期市民学芸員養成講座修了者座談会

4月から新たに市民学芸員として活動されている三人の方から、博物館との関わり、市民学芸員養成講座の応募の理由、小学3年生の見学対応の感想などについてきいてみました！

《出席者》朝倉正浩さん・上田明司さん・渋谷勝男さん 《日 時》令和2年9月15日(火)午後

○まず、みなさんと博物館との関わりについてお訊ねします。これまでの博物館体験をお聞かせください。

(朝倉)

私は26年前に東京都から飯能に引っ越してきました。都内には国立科学博物館

など大きな博物館があるので、子どもが好きだった科学博物館や、まだ神田にあった鉄道博物館には月1回くらいは行っていました。

全国いろいろな旅行する

と地域にも郷土資料館と

いった名前の無料の博物館があったりしますが、土器や古い農機具が並んでいるだけでどこも変わり映えしないようなイメージはもっています。飯能に来てからも、郷土館だから貧弱なものというイメージをもっていたし、10年の間に1～2回来るか来ないくらいだったと思います。

(渋谷)

私は趣味が山登りと俳句だったので、百名山に登った帰りについでに地域の博物館を回ったり、俳句に関係する資料館を見に行ったりして、少しずつ博物館に興味を持つようになりました。

(上田)

私は高校時代考古学研究会に入っていて、その顧問の先生(後の日本考古学協会会長・大阪大学名誉教授都出比呂志氏)から拓本の取り方や発掘調査の方法などを教えてもらいました。また部活で博物館に行くことも多く、旅行に行った時も美術館や博物館はよく訪ねていたので、私にとっては博物館は身近な存在でした。

○次に今回の第Ⅸ期市民学芸員養成講座に応募していただいた理由、きっかけについて教えてください。

(朝倉)

私は飯能というと寝に帰るところ、というくらい

で、地元との関わりがとても薄かったんです。博物館は展示するところというイメージしかなかったのですが、博物館が展示以外に子どもたちに昔の暮らしについて伝えたり、館外での活動もあるということを知って応募しました。

(上田)

定年退職して生協のブロック委員を6年ほどしていました。そこでは組合員と一般の方と一緒に様々なテーマで学習するので学ぶことには慣れていました。その活動もその前年度に卒業しまして、元々考古学が好きだったので、何かできることがあるのかな、と思いました。ただ市民学芸員はボランティアというよりは研修会があってしっかり身につけないと活動ができないので、養成講座はとても勉強になりました。

(渋谷)

私は地域で子どもの見守りをしているんですが、3年生くらいが一番成長が見える時期なんです。児童俳句といって子どもたち1000人くらいに俳句を作ってもらって本にするのですが、3年生くらいが一番よい俳句を作るんです。そういう経験があるもんですから、小学3年生の見学にあたるということで応募しました。

○市民学芸員養成講座はどうでしたか？

内容とか回数とか？

(朝倉)

市民学芸員というと軽いイメージもありますが、大学の先生が博物館の役割だとか目的といったことをきっちと体系づけて説明してくれて、ほとんど知らないことだったので、博物館の本

来の目的がよく理解できました。我々も月1回の研修で「市民」という冠がつくとはいえ、「学芸員」なんて名前を簡単にもらっていいのかなあ、などとは思いま



渋谷勝男さん

した。月1回程度でしたが、養成講座はとても良かったと思っています。

(渋谷)

私は講義が多すぎるように感じました。先生も違うので「学芸員とは」というような内容も3～4回あったように思います。それを減らしてもっと実際に、子どもに説明する時の実際に則した講習を増やした方が良かったような気はしています。

(司会)

小学3年生に説明するための実践的なプログラムってどんなのがいいですかね？

(渋谷)

例えば昔の道具探しクイズや紙芝居など実際に1回通してやってみる機会が事前にあると良かったのですが、流れが頭に入っているとできると思うんですが、それもなくていきなり本番だったのでとまどいましたよ。(笑)

(上田)

説明は自分の言葉で伝えることが大事なのと、人によって説明の内容が違うというのはまずいので、整合性が保つような訓練というか機会がほしかったなあと思いました。

(朝倉)

予行練習してもそんなに変わらないかもしれませんが。習うより慣れる、ということかもしれないし。悩ましいところです。慣れている先輩方にはかなわないので、素人は素人なりに、養成講座受講生の立場でやっていくしかないのかなと。逆に講義の回数が少ないと不安な部分もありますよね。いきなり小学3年生に対応しなさい、というのは不安なところもあるので、教育委員会の方から小学3年生が多感な時期にあるということを事前にレクチャーしてもらえたのはとても有意義でした。私はちょうどよいと思います。

(渋谷)

私も全体の回数を少なくするというよりは実技を増やしてもらいたいです。

(上田)

「市民学芸員」という名前を頂戴するので、それなりの研修は積まないといけないと思います。ただ実技とかイメージトレーニング、例えば、児童は来ていないだけでその場で実際にやってみるとか。ただ相手が小学3年生で一番脱皮する時期だと聞いていたので、その怖さもありました。

○小学3年生の見学対応について、実際やってみてどうでした？子どもたちを相手にするというのは難しかったですでしょうか？

(上田)

道具を観察した後で、この子はもっと訊きたいんだろうなあというのがわかるのに、時間が来たら次のプログラムへと流してしまうのはちょっと残念ですね。滞在時間に限りがあるので仕方ないですが。

(渋谷)

道具探しクイズだと20個あっても最後の方は少しだけ説明して終わり、というようになってしまう。本当は時間をかけて1つ1つ丁寧に説明できるといいんだけど。

(上田)

そういうのも人数によりますよね。

(朝倉)

私は大勢の子どもたちと接するのは新鮮な感じがしました。会社勤めだと大人だけが相手なので。

(上田)

子どもの瞳はいいです。

(朝倉)

子どもは大人、子どもと区別しないで話しかけてくるから。子どもは垣根がないというか。

(上田)

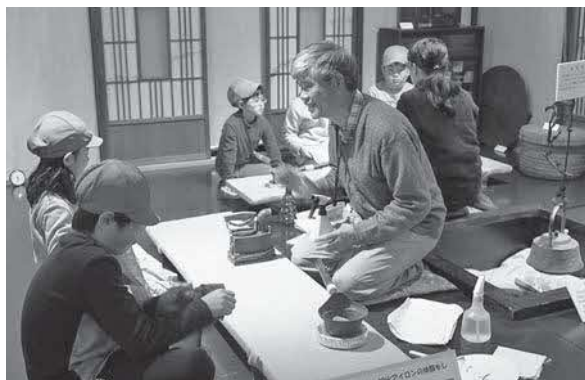
まだ純粋なんですよ。パワーをもらえますね。毎日年寄りの顔を見ているから…。そんなこと言っているとかみさんに怒られるけど。(笑)

(司会)

逆に疲れたりしないですか。あの子どものエネルギーを2時間受け止めて。



上田明司さん



昔のアイロン体験を指導する渋谷さん



歴史展示室で子どもたちの観察を見守る上田さん

(上田)

疲れるというよりは楽しいですね。疲れるというのは自分が楽しんでいないからだと思います。

(朝倉)

毎日やっている学校の先生はまた違うんでしょうけど。たまにあるのがいいのかもしれません。

(司会)

ところで9月から市内の小・中学生全員にタブレットが貸与されるんですが、そうになると写真などの資料も簡単に直接送れてしまいますので、博物館に来なくてもよいと思われないうにしないと、という危惧もあります。

(渋谷)

やはり見るだけじゃなくて、触ることができる、というのが博物館のメリットなんで。見るだけじゃわからないよね。

(朝倉)

石臼とアイロンは人気ありましたよね。

(渋谷)

ITが発達してもやっぱり立体感は伝わらないと思う。触ることも大事だし。

(上田)

パソコンでも立体的に見せることはできるだろうけど、実際手にもって石臼の重さを体験してみると全然違いますよね。

(朝倉)

単純な仕組みで、なんでこれが粉になるのかとかは実際体験してみないとわからない。アイロンも熱くて、少し水をふきかけてやれば伸びていくというのも体験によって初めてわかることだと思います。

(上田)

ネットといっても、人が集まって学ぶ一体感というか、顔なじみになったりする、情報源が増

えるという良さにはかないません。実際、顔をつきあわせて話してみるとインターネットで発信していることとは違うのではないか、ということもありました。

○ところで、市民学芸員として当館に関わる前も含めて、当館について何かご意見はありますか？活動とか、内容とか。

(上田)

やはりイベントでしょうね。インパクトのあるイベントですね。私がすごくインパクトを感じたのは昨年7月の原爆を取り上げた展示です。あれはすごいな、と思いました。あとはPRの仕方ですよね。

(朝倉)

でもあちこちに博物館のポスターが貼ってありますよね。公民館だとか。

(上田)

貼ってあっても意外と見ていないんですよ。

(朝倉)

ぼくも気にするようになったからかな。

(上田)

当事者の人は見るんです。私たちも活動をしている時はポスターはいくらでも貼りましたが、人はすーっと前を通り過ぎていきます。今見ているのはSNSですよ。

(朝倉)

例えば中央公園でやるイベントの時には幟でも立てるとか。

(上田)

その時に市民学芸員がその場で何かやるとか。市が主催のイベントならOKでしょう。

(司会)

本日は長い時間ありがとうございました。



歴史展示で子どもたちに説明する朝倉さん